

# 大和生物研究所の蓼科工場

## 新充填ライン完成

じゅうてん

医薬品製造、販売、研究開発の大和生物研究所(川崎市、大泉高明社長)は15日、

茅野市玉川上原山林間工業公園内の蓼科工場新充填ラインの完成式を同所で行った。関係者約20人が出席し、レベルアップを狙った設備更新に将来を託した。



新充填ラインの稼働のスイッチオンを指示する大泉社長

の設備更新は老朽化に伴うもので、生産性の向上や省力化、品質の維持・向上も狙った。10年後の売り上げに対応するため洗瓶から充填、ラベル張りまでのライン速度を最高で現行の2倍の毎分50本に引き上げたほか、ラインを自動化することで作業効率や衛

が力を合わせ、次の40年、50年をつくるスタートにした「い」とあいさつ。ガラス越しの充填室担当者に稼働のスイッチオンを指示し新たな生産を始めた。充填ライ

生管理を高めた。設備更新に併せ工場内には見学窓やモニターを設置。敷地内に建設中の「蓼科笹類植物園」の完成を見込みながら公開型の工場も目指す。(浦野守)

### 基調判断を上方修正

2月消費動向調査

内閣府が15日発表した2月の消費動向調査によると、半年後の暮らしの明るさを示す消費者態度指数(一般世帯)は、前月を0.8ポイント上回る39

### 暮らし改善実感なし

09年12月消費動向調査 DI マイナス40

長野経済研

長野経済研究所(長野市)は消費動向調査の結果をまとめた。2009年12月時点で、前期(09年6月時点)に比べ、暮らし向きが「改善した」と回答した割合から、「悪化した」と回答した割合を差し引いた暮らし向きDIはマイナス40・0となり、08年12月時点を底に2期連続で前期を上回った。しかし、来期(10年6月時点)見通しはマイナス45・1と低下を予想し、暮らし向きの改善を実感するま